

目的 個性とは他の人とは異なったその人特有の性質である。この個性のうえに、被服の個性が重ねられて生ずる新しい個性がよりよい自己表現の手段として、被服は重要な役割を果たしている。近年、被服はデザイン、色、柄共に多様化され、ファッション性も高い。個性に合致した被服の一般的な傾向を見出すと共に、どのような自己表現が可能であるかアリスミラー（自動試着判定装置）を用いて、着 装 イ メ ー ジ に 及 ぼ す 個 性 と 被 服 デ ザ イ ン と の 関 係 を 明 ら か に す る。

方法 21歳の女子学生66名を対象とし、身体的特徴とイメージ特徴に関する42用語対を用いて7段階評定を行い、因子分析による因子負荷量と因子得点を求めクラスター分析を行い、代表モデルを選出した。1991年春夏の各種ファッション雑誌より37種類選定し、カースライドを作成した。モデルはアリスミラーの前に立ちスライドを順次写し出す。その画面を見て9用語対で判定した。その結果について、因子負荷量と因子得点を求めた。この着 装 イ メ ー ジ に 及 ぼ す 個 性 と 被 服 デ ザ イ ン の 関 係 を 数 量 化 Ⅲ 類 に よ っ て 明 ら か に し た。

結果 個性を類型化した結果、一般型、優雅型、活動型、可憐型、クール型、健康型に分類することができた。被服を着装した場合のイメージは評価性、女性らしさ、大人っぽさ、現代性の4因子で構築されている。被服の種類はフェミニン、カジュアル、スポーティ、モダンに分類された。これらの個性と被服が着 装 イ メ ー ジ に 及 ぼ す 影 響 に つ い て 調 べ た と ころ、評 価 性 と 現 代 性 の イ メ ー ジ に は 個 性 と 被 服 デ ザ イ ン が 影 響 し、女 性 ら し さ、大 人 っ ぽ さ の イ メ ー ジ に は 被 服 の イ メ ー ジ が 関 与 す る こ と が 明 ら か と な っ た。